

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.72, February 2010

ARSC 事務局：〒162-0485 東京都新宿区市ヶ谷本村町 2-9

（財）計量計画研究所

応用地域学会事務局 文部省学会コード=10023

会長：田淵隆俊 担当：宮本成雄

TEL: (03)3268-9692

FAX: (03)3268-9919

E-mail: clerk@arsc.org

主要項目： 第 23 回研究発表大会報告
2009 年度坂下賞
2010・2011 年度 運営委員選挙について
第 24 回研究発表大会のご案内
会員の入退会について
2010 年度会費納入のお願い
総会報告
事務局だより

1. 第 22 回研究発表大会報告

大会実行委員長：貝山道博（山形大学）

第 23 回応用地域学会山形大会は 2009 年 12 月 12 日（土）、13 日（日）山形大学人文学部で開催されました。私と田北俊昭准教授（山形大学）が大会の実行を司りました。研究発表プログラムの作成については、文世一教授（京都大学）を委員長とするプログラム・コミッティにお任せいたしました。

本大会の開催にあたっては、山形コンベンションビューローおよび山形大学人文学部から補助をいただきました。また、山形大学、山形県、山形市、山形経済同友会、山形商工会議所、山形新聞・山形テレビをはじめとする地元マスコミなどから後援や協賛の形でご支援をいただきました。

東北地方の日本海側で開催されるのは今回が初めてですが、「天地人」「おくりびと」などで「山形」が話題になっていたこともあり、別会場で行われた地元向けシンポジウムを除く研究発表会には 183 名の方が参加してくれました。この中には 11 名の非会員の方が含ま

れています。

1 山形大会の特徴

本大会の特徴をいくつか紹介いたします。通常の研究発表はいつもの通り2日間午前、午後を通して行われましたが、この他に山形大会では新たな企画を3つ加えました。

(1) 初日の9時30分から12時00分まで、国の重要文化財である山形県郷土館「文翔館」(旧山形県庁)の議場ホール(旧山形県議会場)で、「地元向けシンポジウム」が行われました。大会実行委員会としては、地域科学についての日頃の教育研究成果を地域住民に還元することも本学会の重要な役割の一つと考え、地元住民が無料で参加できるシンポジウムを用意いたしました。テーマは、「自然の恵みから生まれた『地域ブランド』の創出が地域を変える」です。農林水産省、経済産業省、山形県および地元シンクタンクの方に基調講演者あるいはパネリストとして参加していただき、地域産品あるいは地域のブランド化と地域の活性化について議論していただきました。参加者は120名程度でした。

(2) 初日の14時00分から16時40分まで、主会場山形大学人文学部で、一般公開の「環境とエネルギー」に関する「地元シンクタンクセッション」が行われました。これも先ほどと同様の考えに基づいて用意いたしました。地方における環境関連のビジネス及び地域づくりを取り巻く諸問題について、地元の専門家6人に発表していただき、議論しました。ここには非会員の方を含めて50名程度の参加がありました。

(3) 二日目の9時30分から12時10分まで、2つ目のシンクタンクセッションが山形大学人文学部で行われました。テーマは「道路整備効果分析の今日的課題—上田孝行先生追悼企画—」でした。これは2009年9月19日に急逝された故上田孝行教授(東京大学大学院工学系研究科社会基盤専攻)の追悼のセッションでもあります。当初は上田孝行先生が中心となってこのシンクタンクセッションの準備をしておりました。突然のアクシデントにより、当初のシンクタンクセッションの趣旨を保ちつつ、地域学研究の発展および本学会に多大なる貢献をされました上田先生の功績を讃える発表を加えることにしました。当日は、上田先生に関係が深かった小林潔司教授(京都大学)と森杉壽芳教授(日本大学)が中心となって、議論が活発に展開されました。参加者は80名程度で、会場は満杯でした。上田先生のご研究の偉大さとお人柄を改めて思い知らされました。

(4) この他に、例年行われる「坂下賞講演」が第1日目の総会開催前にありました。今回は2008年度授賞者の村田安寧准教授(日本大学)が講演を行いました。講演タイトルは“Trade, Wages, and Productivity”で、その内容はアメリカとカナダの国境(border)が無い場合、現状と比較して貿易量、賃金および生産性にどのような差異をもたらすかを理論的、実証的に明らかにしたものでした。会場収容人数一杯の120名程度の参加がありました。

2 研究発表プログラムの構成

こうした企画と並行して、通常の研究発表も63本ありました。シンポジウムおよび2つのシンクタンクセッションでの発表を加えますと、計80本になります。通常の研究発表だけでも昨年の5割増しです。これはプログラム・コミッティが各方面に働きかけ、発表を

促した結果です。

初日の午前中には、「一般均衡分析」「統計分析における集計単位」「環境時代と公共投資」「河川管理」「地域のスピルオーバー」「土地利用研究」の計6本のセッション（計12本の発表）、同日午後には、前半で「New Frontiers in Japanese Regional Science」「産業連関分析」「企業立地の理論と実証」「空間競争の新展開」の計4つのセッション（計12本の発表）と、後半で「企業の異質性と産業構造」「インドネシアでの地域分析」「集積の経済の理論と実証」「地方財政」の計4つのセッション（計8本の発表）が設けられました。

二日目の午前の前半では、恒例の Early Bird セッションが3会場設けられ、計9本の発表が行われました。Early Bird セッションは学生を中心としたごく若手の研究者に発表の機会を与えるために設けられています。同日午後の後半には、「品質（立地）空間と産業組織」「都市モデル」「地域経済の実証分析」の計3つのセッション（計9本の発表）が設けられました。同日の午後には、前半で「防災・リスク分析」「住宅市場」「国際経済と地域」の3つのセッション（計6本の発表）と、後半で「都市化の実証分析」「高速道路」「中心一周辺モデル」の3つのセッション（計7本の発表）が設けられました。

3 総会

初日の17時30分から18時10分まで2009年度の総会が開催されました。総会では、出席者全員で故上田孝行先生のご冥福をお祈りした後通常の議事に入り、2009年度活動報告及び学会活動方針、会員移動報告、2008年度決算および2010年度予算を承認しました。

また、2009年度坂下賞の受賞者には、松島格也准教授（京都大学）が選出されたことが、2009年度坂下賞選考委員会委員長の藤田昌久（甲南大学）から報告され、総会終了後授賞式が執り行われました。授賞理由は、土木計画学、交通経済学の各分野において、従来十分な目を向けられてこなかった市場の不完全性に着目した理論を構築し、地域・交通政策立案に有用な政策的含意を数多く導き出しているということでした。

なお、2010年度の大会は名古屋大学で行われることになりました。

4 その他

例年行われる懇親会も、総会終了後山形市内の老舗の料亭「千歳館」で行われました。実行委員会としては、「山形」をよく知っていただき、楽しんでいただき、またお越しいただきたいと考えまして、「山形」を味わうことができる料亭で行いました。

テーマは『「地域ブランド」の食と山形文化の夕べ』でした。山形独特の食材を使った料理と山形ブランドの飲食、山形舞子の芸、伝統的餅つきの演技等々、徹底的に「山形」に拘った内容とさせていただきます。準備段階から山形コンベンションビューロー、トップツアー山形支店、千歳館をはじめ地元の皆さま方にご支援、ご協力をいただきました。

この他にも、大会終了の翌日、山形県南部の置賜地方を中心に回って、歴史、遺産、文化および食を堪能していただくことをねらいとして、日帰りツアーを実行いたしました。

今回の大会はこのようにして終了いたしました。残念なことに、A型インフルエンザや伊丹から山形までの飛行機のアクシデントのため参加されなかった方が何人かおられまし

た。次回の名古屋大会ではこのようなことが無いことを切に願っております。

2. 2009 年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2009 年度坂下賞選考委員会 委員長 藤田昌久(甲南大学)

2009 年度の坂下賞については、選考委員会の慎重なる議論を経、以下のように松島格也氏 (京都大学) に決定しました。

2009 年度坂下賞

受賞者： 松島 格也 (京都大学大学院工学研究科 准教授)

授賞理由：

松島格也氏の主たる貢献は、土木計画学、交通経済学の各分野において、従来、十分な注意が向けられていなかった市場の不完全性(マッチング・市場厚・戦略的補完性等の外部性、不確実性)に着目した理論を構築するとともに、地域・交通政策の立案にあたって有用な政策的含意を数多く導き出している点にある。交通市場のメカニズムを理論的に解析し、そこに内在する外部性の存在とその克服方法について分析している。

1999 年、2001 年、2003 年の一連の論文(土木学会論文集、土木計画学研究論文集)では、タクシー市場を例に取り上げて、同質な主体による期待形成メカニズムを通じて市場が内生的に形成されるメカニズムを明らかにしている。不完全な憶測と取引費用の存在が原因となって生じる市場厚の外部性の存在を指摘するとともに、市場差別化政策や運賃規制政策の効果を定性的に示している。

また、2006 年、2008 年、2009 年の一連の論文では、容量に制約のある交通サービス市場を対象として、不確実性を持つ交通サービスの予約行動と料金設定に関する分析を行っている。2006 年の論文では、料金支払いタイミングの違いによる家計と企業間のリスク分担構造を理論的に説明し、事後割引料金の優位性を証明している。2008 年の論文では、予約システムが有する私的情報の顕示メカニズムを指摘するとともに予約システムの持つ各種便益を定性的に評価している。さらに 2009 年の論文では通時的差別化料金システムが持つ効率的割り当て便益の存在を指摘するとともに、社会的余剰にもたらす影響を評価し、料金規制の必要性について理論的に証明している。これらの論文はいずれも、将来に対するコミットメントと意思決定の自由度を定性的に評価するものである。

この他にも、いくつかのユニークな研究を手掛けており、例えば、利他的支払い意思を考慮したバリアフリー施設の経済便益評価とその調査法に関する研究で土木学会論文奨励賞(2002 年度)を受賞している。

いずれの研究論文も、市場の不完全性にともない発生する様々な外部性が存在する状況のもとで、料金政策や公共財投入といった各種公共政策が地域経済にどのような影響をもたらすかを分析し、現実の地域・交通政策に有益な示唆を与えている。理論研究のみならず政策的分析を重要視する応用地域科学の分野において、重要な貢献を果たしている。以上より、2009 年度坂下賞の受賞者として、松島格也氏が相応しいと判断された。

2009年度坂下賞選考委員会

委員長 藤田 昌久 (甲南大学)
委員 金本 良嗣 (東京大学)
委員 赤松 隆 (東北大学)
委員 田淵 隆俊 (ARSC 会長)
委員 黒田 達朗 (ARSC 副会長)

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、松島格也氏には、田淵隆俊会長から、表彰状(盾)と金一封が授与されました。

3. 2010・2011年度運営委員選挙について

選挙管理委員 瀬古美喜 (慶應義塾大学)
城所幸弘 (政策研究大学院大学)

ARSC 会則第8条および内規 I にしたがって、下記の要領で第11期(2010年4月1日から2012年3月31日まで)運営委員の選挙を行います。

内規 I 第3条に従い、選挙管理委員は、会長指名により慶應義塾大学の瀬古美喜会員と政策研究大学院大学の浅田義久会員が引き続き務めます。

投票は、同封の葉書の郵送により、3名連記の投票をお願いいたします。投票の締め切りは、**2010年3月22日(当日消印有効)**といたします。

(同封の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いいたします)

4. 第24回研究発表大会のご案内

2010年度のARSC研究発表大会は、名古屋大学において、黒田達朗先生を大会実行委員長として下記要領にて実施します。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 程：2010年12月4日(土)、5日(日)を予定

(総会、懇親会は12月4日を予定)

会 場：名古屋大学キャンパス

発表申込み〆切：2010年8月末(予定)

論文提出〆切：2010年10月末(予定)

お問合せ：ARSC事務局

(発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号(6月発行予定)に掲載いたします。)

5. 日中共同セミナーの開催について

12月の総会でも紹介されたように、ARSC中国大会は、日中の地域科学の研究交流を目的としております。2009年度は、第3回日中共同セミナーとして、10月3日（土）、4日（日）の二日間、日本の京都駅前にある「キャンパスプラザ京都」で開催されました。

中国からの参加者は、15名、日中あわせて、約50名強の参加があり、発表論文は、中国地域学会（RSAC）関連で13論文、日本応用地域学会（ARSC）関連で22論文、合わせて35論文ありました。第一日目は、ARSCとRSAC（中国地域学会）の会長挨拶に始まり、日中相互の基調講演、一日目午後からと二日目は、各セッションに分かれての発表と討論が展開されました。各セッションとも活発な議論が展開され、日中の地域学に関する交流の大きな弾みとなっていることが感じられました。

懇親会では、鴨川のせせらぎと中秋の満月を愛でつつ、日中地域学の一層の発展が熱く語られ、有意義な古都の夕べとなっていたと思います。

セミナー期間中、今後とも日中の地域科学の交流を継続的に進めていくことが再確認され、2010年度は、下記のように中国上海で開催することを予定しております。奮って参加されますようお願いいたします。開催内容、参加申し込み等の詳細は順次お知らせしていきます。

第4回日中共同セミナー

場 所；復旦大学（中国 上海市）

開催日；2010年9月11日（土）、12日（日）

共 催；応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）

ARSC 担当者；田淵隆俊（東京大学）、鄭小平（立命館大学）

6. 会員の入退会について

2009年度総会（2009年12月12日）において、前回総会以降に入会を申し込まれた以下の方々について、入退会が承認されました（順不同・敬称略）。

入会

一般 8名

田口裕史（財団法人電力中央研究所）、松浦寿幸（一橋大学）、小林隆史（筑波大学）、林光洋（中央大学）、川脇康生（兵庫県立大学）、松島法明（大阪大学）、吉村英俊（北九州市立大学）、河端瑞貴（東京大学）

学生 12名

星野匡郎（東京工業大学）、長町康平（東京大学）、荒木大恵（京都大学）、堤静子（青森公立大学）、菅沼健司（日本銀行）、榊原仁（名古屋大学）、役重道明（明海大学）、菅澤晶子（東北大学）、森田忠士（大阪大学）、高橋寿明（東北大学）、大瀧逸郎（東京大学）、植村哲士（London School of Economics and Political Sciences）

同時に以下の方々の退会が承認されました（敬称略）。

退会

本人の申し出によるもの（19名）

柴田洋雄（山形大学）、鴨池治（東北大学）、山本匡毅（(財)福岡アジア都市研究所）、長崎健二（秋田看護福祉大学）、林良嗣（名古屋大学）、稲村肇（東北大学）、太田浩（青山学院大学）、宮川昌之（川崎市）、加河茂美（九州大学）、萩原清子（佛教大学）、山岸純一（(株)地域市場構造研究所）、井上綾子（上智大学）、景山将洋（筑波大学）、水野哲昭（大阪大学）、張兵（大阪府立大学）、劉嘉茵（岐阜大学）、山根薫（山口大学）、金少勝（筑波大学）、田中逸夫（山口大学）

（総会后、本人からの復帰希望があり、退会者から1名削除。下記人数と合わない）
賛助会員任意退会；社会システム（株）

この結果、2009年11月30日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 385名、学生会員 45名、海外会員 9名、賛助会員 10機関（計 14口）となります。

		2009年1月	入会	退会	転格	2009/11月 30日
個人会員	一般会員	383	8	-11	5	385
	学生会員	47	12	-9	-5	45
	海外会員	9	0	0	0	9
	合計	439	20	-20	0	439
賛助会員		11	0	-1	0	10

8. 2009年度会費納入のお願い

会員データベースに基づいて発行された請求書を同封しています。ご請求額を3月23日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の明細を必ずご記入下さい。

(1) ARSC 会費

2008年度会費は、一般会費 10,000円、学生会員 5,000円、賛助会員 1口 50,000円です。また、海外会員（日本人の短期滞在者を除く）は、ARSC年報を購読される場合\$80、RURDSのみの場合\$60です。なお、海外からお支払いの場合は、日本国内の知人を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出されたUSドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI（国際地域学会）会費

RSAIの年会費は、会員に対するサービス内容に対応して以下の通り、**A、Bの2種類**あります。サービス内容をご確認の上申し込みください。

RSAI会員のサービス等は、Wiley-Blackwell社を通じて行われています。ジャーナル“Papers in Regional Science”も、Wiley Interscience上で閲覧できるようオンライン化されています。（Papers in Regional Scienceは、印刷冊子としての購読もできます）

○ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを希望の場合（A）

一般会員： ¥7,800 学生会員： ¥3,800

<サービス内容>

- ・ジャーナル（PiRS）の郵送による受け取り
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・ニューズレターの郵送による受け取り
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス

○ジャーナルや情報への電子アクセスのみを希望の場合（B）

一般会員： ¥1,600 学生会員： ¥1,200

<サービス内容>

- ・PiRSの電子コピー（Eメールによる受け取り）
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・ニューズレターの電子コピー（Eメールによる受け取り）
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス

<会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、新規に入会を希望される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入してください。また、退会、サービス区分の変更等がある場合は、その旨、払込票の通信欄にご記入ください。

（この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI会員サービス提供の手続きを行います。）

<RSAIの会費納入>

希望するサービス内容の金額をARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

9. 総会報告

2009年度の総会は、大会中の12月12日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

議題及び要旨；

1) 学会活動報告及び活動方針

田淵隆俊会長より、2009年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告（前掲）

3) 2008 年度決算 (別掲)

監査委員 (藤原徹先生(明海大学)、吾郷貴紀先生(高崎経済大学)) からの、決算が適正に行われていることの監査報告がなされ、2008 年度決算は、承認された。

4) 2010 年度予算 (別掲)

①2009 年度予算の修正

前年度総会で承認された 2009 年度予算について、2008 年度 RURDS の発刊の遅れから、2008 年度決算に入る RURDS 購読費が、2009 年度請求となるため、2009 年度のこの RURDS 購読予算を修正する旨を報告し、承認された。

②2010 年度予算

原案どおり承認された。

5) 応用地域学会 2009 年度坂下賞 (別掲)

6) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

①応用地域学研究

応用地域学研究会の編集委員長の奥村誠先生 (東北大学) から、No14 の発刊の報告と、今回の大会で発表された論文の投稿や、若手の会員のみならずシニアの方の投稿、書評の対象の紹介等、是非お願いしたい旨の報告がありました。

②RURDS

RURDS の編集については、黒田達朗先生 (名古屋大学)、中村良平先生 (岡山大学)、Philip MacCann 先生(Univ. of Groningen)を中心とした新しい編集委員会がスタートし、新体制での編集が順調に進んでいることが報告されました。

7) 2010 年度研究発表大会の開催について

(前掲)

8) 2010 年度日中共同セミナーの開催について

(前掲)

9. 事務局だより

ARSC 事務局 宮本成雄

- **第 23 回 ARSC 研究発表大会**は、山形大学で開催され、大変な活況を呈しておりました。今大会も、各所に山形の地域ブランドが盛り込まれた山形ならではの大会で、非常に印象深い大会の一つだったと思います。今大会の陣頭指揮を取られた大会委員長の貝山道博先生並びに田北俊昭先生の大変なご尽力をはじめ、山形大学の皆様、プログラム委員長を勤められた文世一先生 (京都大学) とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。
- **運営委員の選挙**です。2010 年度からの 2 年間、ARSC の運営にご尽力をいただきます。年度末を控え、そして新年度への準備と、何かとご多忙の折かと思いますが、大変重要な選挙です。お忘れなきようお願い申し上げます。
- 地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。個人会員用の入会申込書は

ARSC のホームページ(<http://www.arsc.org/arscform-j.html>)より入手可能です。また、Email によるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項を ARSC ホームページにてご確認の上、必要事項を記入して clerk@arsc.org 宛てに Email でお申し込み下さい。

2008 年度決算書

収入の部	2008年度予算		2008年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,473,728	0.00	7,473,728	
2.個人会費収入	4,600,000	1,800.00	3,748,495	
3. RSAI会費	284,900	0.00	237,200	
4.賛助会費収入	1,100,000	0.00	650,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0	0.00	0	
6.大会参加費収入	235,000	0.00	575,400	
(年次大会)	60,000	0.00	439,000	
(中国大会)	175,000	0.00	136,400	
7.大会開催寄付金	0	0.00	150,000	
8.利子収入	0	0.00	7,085	
9.雑誌販売(Back Number)	0	0.00	19,120	
10.その他	0	0.00	400,000	*
収入合計	13,693,628	1,800.00	13,261,028	
(繰越金を除く収入合計)	6,219,900	1,800.00	5,787,300	
(ドル貨を含む収入合計)	6,342,900			* RURDS編集費(財)昭和経済研究

支出の部	2008年度予算		2008年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	3,224,000	0.00	730,032	
(編集経費)	0	0.00		
(購読費)	3,224,000	0.00	730,032	
2.年報刊行費	1,000,000	0.00	1,069,061	
3.大会開催費	1,325,000	0.00	1,545,937	
(年次大会)	650,000	0.00	922,672	
(中国大会)	675,000	0.00	623,265	
4. RSAIへの送金	284,900	0.00	230,047	
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	
6.名簿印刷費	50,000	0.00	0	
7. ニュースレター等印刷費	100,000	0.00	84,305	
8.一般事務費	280,000	0.00	356,030	
(郵送費)	200,000	0.00	181,400	
(消耗品等)	10,000	0.00	22,970	
(謝金・交通費等)	50,000	0.00	133,460	
(銀行手数料)	20,000	0.00	18,200	
9.事務局費	600,000	0.00	600,000	
10.予備費	50,000	0.00	0	
支出合計	7,034,900	0.00	4,736,412	
繰越金	6,658,728	1,800.00	8,524,616	
ドル貨円換算(手数料を除く)	123,000			
繰越金合計	6,781,728		8,524,616	

注;2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

2010年度予算書

収入の部	2008年度予算		2008年度決算		2009年度予算		2010年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,473,728	0.00	7,473,728	0.00	8,524,616	0.00	6,092,616	0.00
2.個人会費収入	4,600,000	1,800.00	3,748,495	0.00	4,525,000	1,800.00	4,575,000	1,800.00
3.RSAI会費	284,900	0.00	237,200	0.00	348,000	0.00	348,000	0.00
4.賛助会費収入	1,100,000	0.00	650,000	0.00	1,100,000	0.00	1,100,000	0.00
5.補助金(科学研究費補助)	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
6.大会参加費収入	235,000	0.00	575,400	0.00	835,000	0.00	860,000	0.00
(年次大会)	60,000	0.00	439,000	0.00	535,000	0.00	560,000	0.00
(日中共同セミナー)	175,000	0.00	136,400	0.00	300,000	0.00	300,000	0.00
7.大会開催寄付金	0	0.00	150,000	0.00	0	0.00	0	0.00
8.利子収入	0	0.00	7,085	0.00	0	0.00	0	0.00
9.雑誌販売(Back Number)	0	0.00	19,120	0.00	0	0.00	0	0.00
10.その他(昭和経済研究所)	0	0.00	400,000	0.00	0	0.00	400,000	0.00
収入合計	13,693,628	1,800.00	13,261,028	0.00	15,332,616	1,800.00	13,375,616	1,800.00
(繰越金を除く収入合計)	6,219,900	1,800.00	5,787,300		6,808,000	1,800.00	7,283,000	1,800.00
(ドル貨を含む)	6,342,900				7,006,000		7,454,000	

支出の部	2008年度予算		2008年度決算		2009年度予算		2010年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	3,224,000	0.00	730,032	0.00	5,024,000	0.00	3,781,400	0.00
(編集発行費)	0	0.00		0.00	1,800,000	0.00	400,000	0.00
(会員購読費)	3,224,000	0.00	730,032	0.00	3,224,000	0.00	3,381,400	0.00
2.年報刊行費	1,000,000	0.00	1,069,061	0.00	1,050,000	0.00	1,050,000	0.00
3.大会開催費	1,325,000	0.00	1,545,937	0.00	1,820,000	0.00	1,870,000	0.00
(年次大会)	650,000	0.00	922,672	0.00	1,020,000	0.00	1,070,000	0.00
(日中共同セミナー)	675,000	0.00	623,265	0.00	800,000	0.00	800,000	0.00
4.RSAIへの送金	284,900	0.00	230,047	0.00	348,000	0.00	348,000	0.00
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	0.00
6.名簿印刷費	50,000	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
7.ニューズレター等印刷費	100,000	0.00	84,305	0.00	110,000	0.00	100,000	0.00
8.一般事務費	280,000	0.00	356,030	0.00	240,000	0.00	270,000	0.00
(郵送費)	200,000	0.00	181,400	0.00	150,000	0.00	150,000	0.00
(消耗品等)	10,000	0.00	22,970	0.00	20,000	0.00	20,000	0.00
(交通費・謝金等)	50,000	0.00	133,460	0.00	50,000	0.00	80,000	0.00
(銀行手数料)	20,000	0.00	18,200	0.00	20,000	0.00	20,000	0.00
9.事務局費	600,000	0.00	600,000	0.00	600,000	0.00	600,000	0.00
10.予備費	50,000	0.00	0	0.00	50,000	0.00	50,000	0.00
支出合計	7,034,900	0.00	4,736,412	0.00	9,363,000	0.00	8,190,400	0.00
繰越金	6,658,728	1,800.00	8,524,616	0.00	5,969,616	1,800.00	5,185,216	1,800.00
ドル貨円換算(手数料を除く)	123,000				123,000		120,000	
繰越金合計	6,781,728		8,524,616		6,092,616		5,305,216	

RURDS編集費の1,800,000円は、2008年度の購読費

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。